

	活動の基本目標（指針）	主な取組名	成果と課題	
生活 援助 機能	安全・衛生の確保	基本的生活習慣の徹底	基本的習慣が身につくよう日頃から子どもたちに声かけをしているので意識を持ちメリハリをもって行動することができた。	
		子どもの状況把握	日々見守りを行い、日誌・個別対応記録・会議等を通して職員同士で情報を共有した。また、準職員（クラス担当）とのミーティングも定期的に行った。保護者とは保育懇談会、個人懇談、日頃の連絡や相談等を通して子どもの状況を共有した。小学校とは、子どもや家庭の様子について随時連絡、相談を行った。今後も連携を大切に、子どもと保護者への理解を深め、寄り添っていきたい。	
		安全・衛生及び健康管理	毎月1回、また必要時に、設備や遊具等の安全確認、おやつ提供作業や保育環境の衛生確認点検を行った。改善すべき点はその都度対応した。健康管理については、子どもの様子を常に目を配り病気がけの時は記録用誌を活用し、子どもへの適切な処置と保護者への丁寧な報告を心がけた。	
		整理整頓・挨拶の励行などの指導	玩具や持ち物の片付けと整理について、子どもたちに適宜声かけをしたり置き場所を明示したりしてきれいに片づけられるように工夫した。また、毎週金曜日を「ロッカーそうじの日」とし、自分のロッカーの定期的な整理整頓を指導した。保護者懇談会等で持ち物に名前を書いてもらうようお願いしているが、まだまだ無記名の落し物も多く、子どもたちが意識向上するように工夫を重ねたい。また挨拶については、登下館時等に挨拶ができるように子どもたちに指導を行った。	
	基本的生活習慣の確立	手洗い・うがい・消毒の励行の徹底	登館後やおやつ前、外遊び後などには手洗い・消毒の声かけを徹底した。また手洗い場、玄関にポスターも掲示した。一方、保護者にもお便りや保育懇談会等で、子どもたちにハンカチを携帯させていただくよう度々協力をお願いした。今後も感染症予防のため指導をしていきたい。	
		下館時の職員見守り	4月からは、集団下館グループに新1年生が加わり、また、進級によりメンバー編成が変わるため、最初の1週間は職員が下館に付き添った。特に「下館ルート間違えない」「交通ルールを守る」「上級生の役割」について、指導と補助を行った。また、4月期だけでなく、普段の集団下館でも必要な場合は随時、見守りを行い、保護者とも連携し家庭での指導もお願いをした。結果、大きな事故もなく安全に下館させることができた。	
		共有物の使い方・片付け方の指導	使い方や片付け場所の掲示、日々の声かけを行い、子どもたちの意識を高めた。使い方が守られていなかったり、片付けに時間がかかることもあったが、声かけのタイミングを早めたり、お手伝いを募ってきれいに整理したりと工夫をした。	
	社会生活技術の獲得	外あそび(小学校グラウンド)についての指導	1年生には、初めて外あそびをする前に使い方の説明をした。2年生以上は、ルールを守れている人がほとんどで、子ども同士で教え合う姿も見られた。後期になるとルールになり、守らないこともあったので再度注意・指導をした。	
		おやつ提供	学年別で4グループに分けて順番に行った。黙食しながらも子どもたちが楽しいおやつ時間となるように、内容や提供方法などを工夫した。食物アレルギーなど個別の対応が必要な子どもには家庭と確認し、配慮した。できるだけ食べ残しを減らすために、おやつ食べきりの声かけを随時行った。おやつ保管、食器の取り扱いに至るまで衛生管理を徹底した。	
		登館・下館時の指導	登館時の子どもの出席確認等については、学校や保護者と連携を取りながら進めていくことができた。下館は地域別のグループの集団下館を行った。帰り道で起こるトラブルについては、グループ毎に子どもたちで話し合ったり、保護者と連携を取ったりしながら、すぐに対応することを心がけた。帰りの会で、帰り方についての指導を子どもたち全体に行い、安全に帰る意識を高めていった。保育懇談会で地域毎に保護者同士で話し合い、グループ毎の登館状況、ルート等を確認した。今後も学校や保護者と密に連携をとりながら子どもたちの安全確保に努めていきたい。	
		熱中症に対する管理と指導	夏季は、熱中症指数を参考に、外遊びの回数・時間・遊びの内容を制限した。外に出るときは子どもたちに着帽を義務付け、まめに休憩と水分補給を行った。今後も意識して取り組んでいく必要がある。	
	子 ど ろ	生活体験の拡大	土曜日・長期休暇中の朝学習の実施	土曜日及び長期休業中は朝学習の時間を設定し、各自で用意した課題（宿題・ドリル・読書等）に取り組んだ。特に長期休暇中は、クラスごとに部屋を分けて、より学習しやすい環境にした。今後も環境の改善を重ねたい。
			夏休み「休息時間」の実施	1年生については、部屋を暗くして昔話の朗読CDをかけたり、職員が本を読んだりして、体を休めるようにした。しかし、休息時間が終わる頃に寝付く人、起こしても起きない人がいて、個々に合わせた対応ができなかった。次年度はできる範囲で改善していきたい。2年生以上は、別室で静かに過ごせるよう工夫した。
			みんなであそぼう！チャレンジデイ	年11回開催できた。「みんなあそび」を通して、子どもたちの交流の輪を広げ、学童クラブとしての仲間意識を高めることができた。上級生が下級生を助けるという場面もあり、縦割りでの交流のきっかけになった。今後も、子どもたちが積極的に参加できる企画を取り入れていきたい。
お誕生日会			皆で楽しく誕生日の子どもをお祝いすることができた。おやつが豪華になったり、お誕生日の子どもへの質問タイムができたりと、楽しい時間を共に過ごすことで、子どもたちの繋がりを深めることができた。お祝いのカードについては、個々の写真や手書きのイラストとメッセージが喜ばれていたが、年々登録人数が増えているため、形を変えていきたい。	
入会式に向けての取り組み			入会式で新入生に渡すメッセージカードを作った。お祝いの言葉を自分たちで考え、上級生としての意識を持つことができた。	
入会式			新入生の紹介、写真撮影、在籍生のけん玉発表、メッセージつきおやつプレゼント渡し等でお祝いすることができた。新入生・保護者・職員の顔合わせもでき、これから学童生活で過ごすイメージを持つ等、保護者からの理解も得られた。	
防災まなびタイム			紙芝居や2択クイズなどを取り入れることで子どもたちが興味を持って取り組めた。また、実際に机の下で頭を守ったり、非常階段から避難したりして、子どもたちの防災意識を高めることができた。	
新入生歓迎会			新1年生の名前や好きなものの紹介を行い、楽しみながら仲間とのかかわりを持ち、新1年生のことを知るすることができた。	
エコタイム			エコについて考えるきっかけとなり、おやつのごみ分別も普段から意識を持って行えるようになった。	
夏まつりに向けての取り組み			ステージ発表のけん玉練習をすることで、意欲的に技や「もしかめ」の練習を頑張ることが出来た。	
夏まつりけん玉発表	学童クラブ児童の頑張りを保護者や地域の方に見てもらうことができ良かった。特に、けん玉「もしかめ」を曲に合わせて一斉に披露したのが称賛された。			

こも育 成機 能	社会性の養成	3年生企画	長期休業中に「みんなあそび」企画の準備と運営を行うことで、仲間意識が高まった。また、個人差はあるが3年生の自主性やリーダー性を伸ばすことができた。
		3年生会議	3年生の思い出企画について、子どもたちが主体的に話し合い、内容を決定した。子どもたちの自主性や仲間意識、思いやりを育むことができた。
		3年生遠足	太秦映画村では、3年生会議で決めた約束を守り、仲間と回ることができた。普段はできない楽しい一日を過ごし、良い思い出作りとなった。
	自立の促進と自主性の尊重	お弁当いらないデイ	皆で同じお弁当を食べることや、保護者が配膳・見守りをすることがとても嬉しい様子だった。テンションが高くなり、注意することも多かった。長期休暇中に実施することで、保護者からは「お弁当作りの負担が軽減して助かる」との声が多数あった。
		手助けさん	学童クラブの保護者が保育中に子どもたちと遊び、普段の様子を見てもらうとくみ。お帰りの会の一言発表では、保護者も子どもも「楽しかった」という意見が多く、振り返りアンケートからも児童館や職員に対しての理解が深まったと感じられた。
		年忘れ大感謝祭！	スクリーンで4月からの写真や動画を見て、みんなで楽しみながら一年を振り返ることができた。また、「みんな遊び」や「ゾンビダンス」では一体となって盛り上がった。
		おたのしみパーティー	卒館する子どもや退職する職員の送別会を全員参加で行う。一年を振り返る写真や、卒館生が1年生だった頃の写真を大きなスクリーンで見、皆で懐かしみ、盛り上がった。
		そんぼの家東寺さんとの交流	今年度からの行事ではあったが、年2回の交流ができた。消毒や配膳の手伝いが主な内容で、しっかりした受け答えやお手伝いできた。また、高齢の方に対して、思いやりの気持ちを持つ等、意識を持って参加できた。「参加してよかった」「ふれあうことができて良かった」と振り返りの声もあり、次年度も交流を続けていきたい。施設からは、入居している方が嬉しそうにしていたと好評だった。
		児童館行事への参加	児童館主催の行事「エコのとくみ」「館外活動」「子ども安全防犯教室」「子ども防災フェスタ」「子ども防火教室」などに参加することで、自由来館児童や地域の方と交流したり、日々の生活では得られない経験を得ることができた。その他では、各種あそびの取組・大会（オセロ・マンカラ・こま）に参加した子どもたちは継続して取り組むことで、大会終了後も普段の遊びへとつながっていた。
		クラブ活動への参加	児童館が主催するクラブ「おもしろ研究所」「将棋クラブ」「オニムクラブ」「けん玉クラブ」「卓球クラブ」に参加することで、遊びの技術の向上、自由来館児童との交流、遊びの幅の広がりとといった成果があった。
子育て 支援機 能	子育てに必要な情報の提供	保育懇談会	保育懇談会は、各クラス年4回の開催予定で行った。初回は館行事の手伝いを決めるため、出席率が高いが、回数を増すごとに出席者が減る傾向にあるのが課題。スライド上映では、学童クラブだより「からっこ」では伝えきれないことも直接、写真を見て保護者に伝えられたので、好評だった。長期休暇前（夏・冬）には、地域別集団下館班ごとに話し合いを行い、子どもの登下館ルートなどについての確認、情報共有ができたの良かった。また、クラス別で自己紹介や意見交換を行い、保護者からの生の声をその場で聞くことができたと同時に、保護者同士の繋がりも深めることができた。
		小学校との連携	定期的に小学校とのおたより交換を行った。また、保護者や子どもへの対応について、随時連携をとりながら進めることができた。日常においても、学校の遊具使用のルールや、下校時間などについては、随時、連絡をとり、気軽に相談できる関係性をもつことができた。
		「うえぶさくら」の活用	毎日「うえぶさくら」を活用し、欠席連絡や帰り方、体調等の確認ができた。学童クラブだよりなどの配付物や、行事や取り組みのお知らせ、提出物のやり取りにも活用できた。また、保護者からの質問や意見にも応え、より丁寧な対応ができた。一方で、アプリの通知に気付かず閲覧できていなかったり、機械操作が苦手な保護者もいるので、個別対応していく必要がある。
	子育ての仲間づくり	学童クラブ「からっこ」の発行	毎月の行事や取組についての案内や、子どもたちの様子を伝えていくことができた。また、クラス別（つき組・ほし組・そら組）に発行したことで、クラス別の取り組みを意識づけることができたので良かった。夏休み終了後には、毎月の発行分とは別に、夏休み期間の子どもの様子についてを伝えるために写真を多く使った「夏休み特別号」を発行した。今後も毎月の行事だけでなく、子どもたちの成長を感じられるような紙面を作成していきたい。
		個人懇談	保護者と各クラス担任で、学童クラブ・家庭・学校での子どもの様子について個人懇談をおこなった。学童クラブでの様子については、事前に職員間で幅広く情報を集め、保護者に伝えた。保護者と直接話し合う大切な機会であり、保護者と学童クラブの相互理解をさらに深めることができた。また懇談後はその内容を職員全員で共有することで、子どもに対する理解を深め、保育に活かすことができた。定期的に行っている個人懇談以外にも、保護者との連携が必要な児童に対して、個別に時間を設定して懇談を行った。保護者にとっては、職員とじっくりと話せる機会となり、懇談内容は職員同士でも情報を共有し、日々の保育に活かしたので良かった。
	子育てを支えるネットワーク形成	入会説明会	資料の説明だけでなく、スライド上映で学童クラブの様子を見てもらうことで、より分かりやすく保護者に伝えることができた。
		利用者アンケート	学童クラブ登録児童とその保護者から行事や取組、日常生活についての意見や要望を知る機会となった。事業内容の見直しや改善の参考とした。